## 在宅医療委員会　　天羽　康雄

### （１）在宅医療委員会

　急速な高齢化に伴い在宅医療へのニーズが高まってきており、地域包括ケアシステムの構築を速やかに行う必要がある。当医師会では 14 名の会員が委員となり、年に３回の在宅医療委員会の開催に加え、メールによる迅速な意見交換を実施し、地域包括ケアシステムの構築に向けた意見交換を行っている。

### （２）在宅医療・介護

　地域包括ケアシステムの構築に向け次の項目を実施した。

ａ）在宅医療講演会の開催

　毎年春に医療職や一般市民にも有益となる講演会を定期的に開催している。内容は在宅における寝たきり患者や認知症高齢者、終末期患者などをめぐる話題について、第一線で活躍中の講師を招いてわかりやすい内容で講演して頂いている。28 年度の在宅医療講演会は６月４日に「人生の最終段階における医療を考える−病院から在宅へ−」というテーマで開催した。29 年度は６月３日（土）に開催予定。

ｂ）大阪北部地域神経筋難病ネットワーク会議

神経筋難病患者が地域で安心して医療やケアを受けることができるよう、専門医療機関、保健所、豊中市・吹田市・箕面市・池田市各医師会代表が中心となり、医療（病病および病診）連携のみならず介護との連携を充実させる活動をすすめている。また一般医療担当者に対して神経疾患に関する講習会も年１回開催している。

ｃ）認知症地域支援・ケア向上事業への参画

　豊中市の委託事業で、豊中市、地域包括支援センター、社会福祉協議会、認知症疾患医療センター、認知症サポート医が中心となり、市の認知症施策の充実を図っている。医師会からは嘱託医を派遣しているが、平成 27 年度からは、虹ねっと連絡会のワーキンググループのひとつとしても位置付けられ、嘱託医がその座長を務めている。保健所、民生・児童委員・校区福祉委員、豊中市老人介護者（家族）の会、かかりつけ医等を加えて会議を重ねている。

ｄ）がん医療ネットワーク協議会

　国からのがん対策推進基本計画を受け、豊能医療圏におけるがん医療水準向上を図るため、がん診療拠点病院に指定されている市立豊中病院を中心に地域連携体制の強化を進めている。協議会委員ならびに緩和ケア部会委員として参画している。

ｅ）関係団体との協力

地域包括ケアシステムの構築に向けた豊中市内の多職種の代表者会議である「虹ねっと連絡会」の７つワーキンググループ（以下 WG）に参加（認知症 WG・多職種スキルアップ WG・退院前カンファレンス推進 WG・市民啓発 WG・ICT 検討 WG・ほっとライン庄内・少路・柴原あんしんプロジェクト）。このうち、豊中市在宅医療推進・医療介護連携推進事業として４つの WG（多職種スキルアップ WG・退院前カンファレンス推進 WG・市民啓発 WG・ICT 検討 WG）の事務局を医師会に置き各 WG 会議を開催した。平成 29 年３月 18 日には「穏やかな最期を迎えるために知っておきたいこと−病院でも施設でも在宅でも−」というテーマで市民講演会を開催した。

ｆ）介護保険事業

　医師会員 60 名が豊中市介護保険認定審査会に参加し、認定審査を行っている。大阪府医師会の介護・高齢者福祉保健委員会とも連携し、介護保険事業の充実化を図っていきたい。

ｇ）大阪府在宅医療推進事業

　地域の医療資源の把握や訪問診療や看取りの実績がある診療所を地域で増やすことを目的に在宅医療・介護推進コーディネータを設置し、平成 28 年 12 月から平成 29 年１月にかけて、在宅医療の体験会ともいえる「同行」マッチングプロジェクトを企画するとともに、平成 29 年１月 26 日には在宅医療意見交換会として医師・訪問看護ステーションを対象に研修会及び意見交換を通じた交流会を行った。さらに同３月９日には、在宅医療研修会を開催し、三師会に訪問看護ステーションを加えた「在宅カルテット」による四輪駆動体制の強化を図った。また、各医療機関の診療領域、特殊検査、在宅医療行為リストなどの情報と所在地を略図でわかりやすく表示した医療機関マップの改訂を行った。また、これらの情報を電子化することで豊中市の医療資源を今まで以上に活用できるようにデータベース化した「豊中Med-iMap」を運用している。